

今日、国民の三人に一人が大地震に対する備えをしていないといわれています。

阪神・淡路大震災から早くも十年が経ち、当時の記憶が薄れていく中で、震災から得た教訓も忘れかけているのかもしれない。

万が一のときに役に立つのは日ごろの備えです。その時に備え、自分の身は自分で守れるようにしましょう。

災害発生前の備え

家具の固定

背の高い家具は固定しましょう。つっぱり棒のタイプは天井の強度が十分かどうか注意しましょう。壁にネジで止める固定する方法は、壁の裏に材木が渡っている部分に固定しないと強度が出ませんが、壁をたたいて音の変化からその場所を聞き分けるのは難しいので留意しましょう。

大地震が起これば、テレビは数メートルも飛ぶことがあります。布団で寝る場合には、テレビとの位置関係に留意が必要です。

ガラスの飛散

割れたガラスは危険であり、また、避難の妨げになります。ガラスに飛散防止フィルムを貼るのが効果的です。また、カーテンを閉めておくことで、も屋内への飛散には効果がありません。ガラスや瀬戸物などが割れても歩けるように、普段から寝室に靴などを置いておく工夫も有効です。

地震などの被災者になった場合は、避難生活を余儀なくされます。自分が避難生活を送ることになる前に、まずはその生活がどのようなものなのかを知っておきましょう。

避難所を知ろう

各地域でどのような施設が避難場所に指定されているかをあらかじめ知ることが、避難生活への備えの第一歩となります。

三日分の食料・水の備蓄

災害発生直後は、食料や水等の支援物資が届くまである程度時間がかかることを想定し、最低三日分の食料や水の備蓄が各家庭や避難所に求められます。

トイレ

避難所のトイレも、衛生状態を保てるよう流す水を持って入り、紙はゴミ箱に入れたり、使った後に掃除したりするなどの協力が必要です。なお、現在、下水道に直結したマンホールに簡単に取り付けられる災害用トイレの開発が行われているそうです。

疎開

長期の避難生活が予想される場合には、被災地から離れられない場合でなければ、被災地の状況が落ち着くまで、疎開することも一つの手段です。企業としても、被災後しばらくは必要最小限の雇用者のみを出動させ、残りは住まいのある地域で地域貢献活動などに当たってもらうことが、都心部のトイレや水・食料の問題を悪化させない配慮にもなります。

避難の際に

持っていると便利な物

手回しの懐中電灯つき携帯ラジオ

(携帯電話もつなげるもの)

包装ラップ

(水のないところでも汚れた手に巻いたり、皿に敷いたりするため。包帯代わりや体に巻いて体の保温もできます。)

ビニールのごみ袋

(防寒着、レインコート、トイレの代わりになります。)

携帯用ウェットティッシュ

旅行用下着セット

携帯カイロ



鳥取西部地震から五年目を迎え、地震から得た教訓を再度確認するため、左記のとおり鳥取県西部地区を会場とした総合防災訓練が開催されます。現在、詳しい訓練内容等は調整中ですが、訓練の際は、皆さんのご協力をお願いします。

日時：十月六日(木)
場所：西部地区各市町村

【問い合わせ先】

総務課 ☎六八 三一一